令和6年度

セント・ピーターズバーグ市派遣
高校生親善研修生報告書

令和6年7月22日(月)～8月1日(木)　11日間

Takamatsu International Association
公益財団法人 高松市国際交流協会

目　次

1　セント・ピーターズバーグ市親善派遣研修生　日程表 …… 1

2　フォトギャラリー …… 3

3　引率者感想文

（公財）高松市国際交流協会　事務職員　　河野　千穂

「対面でしか得られない国際交流の醍醐味」 …… 5

4　親善研修生　報告書　Ⅰ

香川県立高松商業高等学校 3 年　　市橋　怜

日誌・活動記録 …… 7

感想文「私に成長をもたらしてくれた研修」 …… 14

5　親善研修生　報告書　Ⅱ

香川県立三木高等学校 1 年　　菅　紅羽

日誌・活動記録 …… 15

感想文「初めての経験ばかりの 10 日間」 …… 26

6　親善研修生　報告書　Ⅲ

香川県立高松西高等学校 3 年　　原田　好美

日誌・活動記録 …… 27

感想文「家族」 …… 39

日　程　表

高松空港―タンパ空港

日　付			便　名	発着時刻
7/22(月)		高松空港　5:45		
	出発	日本空港チェックインカウンター集合 【出発式】	JL474	7:05
	到着	羽田空港		8:25
	出発	羽田空港	JL010	11:30
	到着	シカゴ空港　＊アシストガイド＊		9:20
	出発	シカゴ空港	JL7692	13:04
	到着	タンパ空港 【現地お出迎え】		16:44

研修生：7/22(月)から 7/31(水)　セント・ピーターズバーグ市でホームステイ
引率者：7/22(月)から 7/26(金)　セント・ピーターズバーグ市内のホテルに宿泊
　　7/27(土)から 7/31(水)　セント・ピーターズバーグ市でホームステイ

タンパ空港―高松空港

日　付			便　名	発着時刻
7/31(水)	出発	タンパ空港 【現地お見送り】	JL7439	6:30
	到着	シカゴ空港		8:31
	出発	シカゴ空港	JL009	12:25
8/1(木)	到着	羽田空港		15:20
	出発	羽田空港	JL485	18:25
	到着	高松空港		19:40

令和６年度　セント・ピーターズバーグ市親善派遣研修生　日程表

令和６年７月 22 日（月）－８月１日（木）

日時	場所	研修内容
７月 22 日(月)	高松空港―タンパ空港	・高松空港：出発式 ・シカゴ空港経由でタンパ空港へ ・SPIFFS【セント・ピーターズバーグ国際民族会】、ホストファミリーによる出迎え
７月 23 日(火)	ジェームズ美術館	・館内見学
	The Havana Room at the Cane and Barrel Rooftop Bar	・歓迎夕食会
７月 24 日(水)	ダンカン・マクレランギャラリー	・ガラス制作体験
７月 25 日(木)	サンケンガーデン	・園内見学
	セント・ピーターズバーグ市役所	・高松市についてのプレゼンテーション ・市議会と商工会議所の方たちと昼食 ・議場見学
７月 26 日(金)	ダリ美術館	・サルバドール・ダリの作品鑑賞
７月 27 日(土)	セ市研修生リレン自宅	・ファミリーバーベキュー
	アル・ラング・スタジアム	・タンパベイ・ローディーズ　サッカー観戦
７月 28 日(日)	トロピカーナフィールド	・タンパベイ・レイズ　野球観戦
	タンパ湾	・タンパ湾クルーズ
７月 29 日(月)	ディズニーワールド エプコット	・ホストファミリーからのプレゼント
７月 30 日(火)	セント・ピーターズバーグカトリック高校	・セ市研修生アヴァの通う高校の校内見学
	Oyster Shucker	・SPIFFS 関係者、ホストファミリーたちと送別会
７月 31 日(水)	タンパ空港	・関係者、ホストファミリーのみなさんによる見送り
８月１日(木)	高松空港	・研修生家族による出迎え

st.petersburg
www.stpete.org

St. Petersburg Photo Gallery 2024

歓迎夕食会

市長表敬

ジェームズミュージアム見学

高松市のプレゼンテーション

サンケンガーデン見学

タンパベイ・レイズの野球観戦

タンパベイ・ローディーズ　サッカー観戦

ダンカン・マクレランアートギャラリーでガラス制作

タンパ湾クルーズ

研修生自宅でパリオリンピック応援

セント・ピーターズバーグカトリック高校見学

SPIFFS　主催の送別会

引率者感想文

引率者感想文

対面でしか得られない国際交流の醍醐味

（公財）高松市国際交流協会
事務局員　河野　千穂

私が高松市、セント・ピーターズバーグ市高校生親善研修生派遣事業に携わって 6 年目になるが、今回初めて、引率者としてセント・ピーターズバーグ市に赴くこととなった。2020 年から 2024 年まで、新型コロナウィルス感染症の影響で派遣事業は中止となっていたが、オンラインで国際交流を継続し、姉妹都市提携 60 周年記念を一緒にお祝いしたり、派遣事業の代替事業を行ったりしてきた。その期間、SPIFFS（セント・ピーターズバーグ国際民族会）の現会長であるスティーブンさんと試行錯誤しながら、コロナ禍を乗り越えてきた。そして、5 年ぶりの派遣事業再開である。派遣事業が再開と決定してからは、SPIFFS の新事務局長ジョーエレンさんとのやりとりが始まり、渡米直前まで調整をしてきた。オンラインで画面越しだったスティーブンさん、メールのやりとりだけで顔を見たことのないジョーエレンさんに直接お会いできると思うと胸が高鳴った。

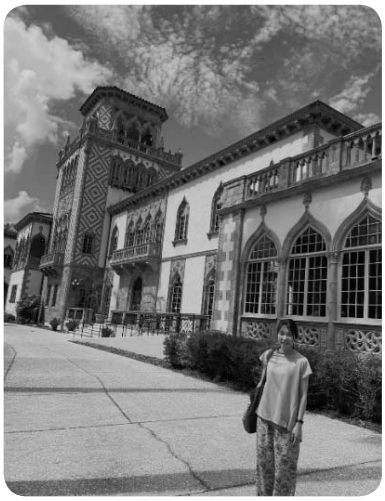
引率者として一番不安だったことは、シカゴ空港での乗継だった。引率者といえども、自分自身も初めてシカゴ空港に降り立つ。研修生 3 人を不安にさせないよう、空港内の地図、航空券の搭乗ゲート番号と時間を何度も確認した。そんな心配をよそに、当時、世界の大規模システム障害の影響なのか、入国審査を通過するだけに異例の約 3 時間もの時間を要した。しかもその後、研修生の 1 人が入国審査カードを紛失したり、セキュリティーゲートで足止めされたりと、予期せぬ事態が起こった。やっとの思いでゲートを通過し、アシスタントガイドのサエコさんに出会えた。すぐにターミナル移動を誘導、搭乗ゲートの近くまで案内してくれ、一同全力疾走でゲートに向かい、搭乗時間ぎりぎりで何とか飛行機に乗り込むことができた。そのとき体の疲労感は最高潮。一番のネックだったシカゴ空港をクリアし、胸を撫でおろした。空港には魔物がいると感じた。

SPIFFES 関係者と日本式ピース

乗継時間とフライト時間をトータルして、約 21 時間で目的地セント・ピーターズバーグ市に到着してからは、様々な方たちとの出会いがあり、話したいと思っていた方々ともコミュニケーションをとることができ、有意義な滞在になった。

まず、スティーブンさんとジョーエレンさんをはじめ、SPIFFS の関係者の方々である。仕事上、オンラインやメールで今までずっとやりとりをしてきたが、実際にお話しをして彼らの温かい人柄を知ることができた。高松市との姉妹都市としての交流をとても大切に思ってくださっており、私もその担当者としてこれからの派遣事業をより充実、発展させていくためにどうすべきかを考えさせられる機会になった。

次に、ホームステイ先のイーウェンさんである。私は今回、ホテルステイとホームステイの両方を



リングリング美術館にて

経験する機会を得た。イーウェンさんのところに滞在中、できるだけ現地でしか経験できないことや食べられないものを積極的に案内、紹介してくれた。セント・ピーターズバーグ市内から車で約 45 分のところにある、イーウェンさんおすすめのリングリング美術館に連れて行ってくれたり、ご自宅の近くの海辺を一緒にジョギングしたり、地元の美味しいコーヒーショップに連れて行ってくれたりした。また、イーウェンさんの友人であるトムさんとリチャードさん、他友人たちとの集まりの場にも連れて行ってくれた。5 日間という短期間に、色々な場所や人たちと交流する機会をくださったことに感謝したい。

イーウェンさんとトムさん家にて

そして、元高松市招へい教師のニッキさんにも会うことができた。高松市で当協会のイベントの講師をお願いしたり、セント・ピーターズバーグ市高校生親善研修生派遣事業の面接官をしていただいたりと、数年間に渡ってお世話になった。ニッキさんはセント・ピーターズバーグ市出身であることから渡米前から連絡をとり、再会することを約束した。ニッキさんの大好きなヤドングッズをたくさん携えて、ワクワクしながら再会を果たした。期待通りお土産たちをとても気に入ってくれ、私も満足した。一緒に夕食をとりながら高松市での思い出話や、現在の仕事の話などをした。また、次の日セントピートビーチという有名なビーチに連れて行ってくれ、白い砂浜を歩きながら貝殻を一緒に集めた。セント・ピーターズバーグ市の地で再会を果たすことができ、本当に嬉しかった。

ニッキさんとレストランにて

最後に、研修生たちのホストファミリーのみなさんである。現地のプログラムでいろいろな場所に訪問する際、私の送迎などもしてくださり、大変お世話になった。

私は今回引率者として 10 日間を過ごして、実際に顔を合わせて会話することがいかに重要であるかを改めて実感した。オンラインやメールなど、コミュニケーションの手段はたくさんあるが、やはり直接会話をすることに勝るものはない。研修生たちも現地でホームステイをして、ホストファミリーたちとの絆を深めることができた。また、現地でホストファミリーだけでなく、より多くのセント・ピーターズバーグ市の方々と交流できる機会を増やすことができれば更にいいなと感じた。

今後、派遣事業の現地プログラムの内容を見直し、研修生たちの交流の場を更に広げていけるようなプログラムになるよう SPIFFS と協力し、より有意義な派遣事業になるよう尽力していきたい。

親善研修生　報告書　Ⅰ

親善研修生　報告書Ⅰ

日誌・活動記録

香川県立高松商業高等学校３年　市橋　怜

７月 22 日（月）

ついにきた。今日は楽しみにしていた出発の日だ。胸いっぱいの期待と一握りの不安を抱えて、私は高松空港へ向かった。海外旅行は慣れているつもりだったが、今回初めて行くアメリカに、10 日間家族と離れてホームステイをするのだ。心配性な私は向かう途中、車内で何度も忘れ物がないか確認し、出発する際の段取りを頭の中でシミュレーションしていた。空港に着いてからは、家族に別れを告げ、ほどなくして羽田空港へと飛び立った。私は飛行機にのってすぐに眠りにつき、気づけば飛行機は着陸態勢に入っていた。羽田に着いてからは、空港で軽い食事をしてから、今度はアメリカのシカゴ空港を目指して、12 時間程のフライトが始まった。これも、乗った直後に寝たのだが、さすがに今回は着陸態勢に入る前に目が覚めた。機内食を食べ、適当に映画を数本見て、また寝た。

飛行機で寝る私と、からかう他の研修生たち

結局、私が起きたのはシカゴに着陸する時だった。シカゴ空港に着くと、人の多さに驚愕した。あまりの行列に、私たちは入国審査にたどり着くのに、2 時間以上もかかってしまった。そのため、次のタンパ空港へ向かうフライトまでの時間がほとんどなく、私たちは大急ぎでターミナルを移動した。途中、私が入国の書類をなくしてしまったり、様々なトラブルがあったが、何とか私たちは無事、時間通りに飛行機に搭乗できた。私はどっと疲れて、また飛行機に乗るなりすぐに寝てしまった。そうこうして、タンパ空港に着くと、ホストファミリーの皆様が、私たちを熱烈に歓迎してくれた。

ホストファミリーたちの歓迎

今回、私を快く受け入れてくれたキルボン家は、セント・ピーターズバーグ市の研修生リレンと、彼の妹、エティ、そして父のデリックと母のサラだ。車で家に向かうと、そこには、犬のキキが待っていた。家の中を軽く紹介してもらい、部屋に荷物をおろし、夕飯を食べに出発した。この日の夕飯は、ほかの研修生やホストファミリーもみんな揃って海辺のレストランで食べた。みんな揃っての食事はとてもにぎやかで、楽しかった。リレンたちと、地上との圧力差のせいで皮膚が爆散して、挙句の果てに「世界一醜い魚」と不名誉なあだ名をつけられてしまった不憫な深海魚の話など、他愛もない会話を繰り広げたのを覚えている。そのレストランで食べた、ケサディーアというメキシコ発祥の料理は絶品だった。メインのチキンとチーズのパスタもとても美味しかったが、その量の多さに驚いた。どうやら、

アメリカのレストランではあえて大量の食べ物が出されるらしく、ふつうはそれを残すか家に持ち帰るらしい。食事を終えて、家に帰ると、私は久しぶりのベッドのやわらかい感触に感激しながら眠りについた。

7月23日（火）

オーク・アンド・ストーンでピザを食べる私とリレン

昨日の疲れを癒すため、この日はいつもより長めに、ぐっすり寝る予定だったが、5時に聞き覚えのない目覚まし時計の音でたたき起こされてしまった。どうやら、私が使わせてもらっていたリレンの部屋には、彼の学校用のアラームが仕掛けられたままだったらしい。この出来事については、日本に帰るその日まで、何度もリレンに謝られたが、昨日さんざん飛行機で寝たせいか、意外と眠くなかった。支度をして、しばらく時間をつぶして、朝食を食べ、出発の時間までリレンたちとテレビで映画をみた。昼頃に家を出て、目的地のジェームズ・ミュージアムのすぐそばの、街中のオーク・アンド・ストーンという店でピザを食べた。これも大変美味で、もう一度食べたいと思った食べ物の一つだ。

その後、私たちは同じく、近場で昼食をとっていたほかの研修生やホストファミリーたちと合流して、ジェームズ・ミュージアムへと向かった。実は私は博物館や美術館の類が大の好物なので、この時を密かに楽しみにしていたのだ。実際に足を運んでみると、ネイティブ・アメリカンの生活や文化を描いた作品が数多くあり、やはりとても興味深かった。気づけば私は時間を忘れて作品鑑賞に耽っていた。ジェームズ・ミュージアムを去ったあと、私たちはみんな一度リレンの家で集まり、この後の歓迎夕食会のために、各々浴衣に着替えた。この歓迎夕食会には、セント・ピーターズバーグ市のウェルチ市長も参加される上、私たち高松の研修生には、彼に高松市の市長らからの贈り物を届け、その説明をするという重大な任務があったので、私はとても緊張していた。だが、実際に行ってみると、ウェルチ市長はとても気さくでフレンドリーな方で、彼や他の人と話したり、食事を楽しんでいるうちに、私の緊張は、どんどんほぐれていった。そしてしばらくして、ウェルチ市長に贈り物を渡す時がきた。緊張で何度か噛んでしまったものの、何とか品物の説明もできて、無事に渡すことができた。ウェルチ市長が優しい方で本当によかった。緊張した場面も多々あったが、思い返してみるととても楽しいひとときだった。

夕食会でのウェルチ市長と私たち研修生

任務を終え、一旦、肩の荷が下りた私は、帰宅後、キルボン家の愛犬キキと戯れた後に、眠りについた。

7月24日（水）

ガラス工房での私

今日はぐっすり寝たあと、朝食を食べて、ダンカン・マクレランギャラリーへと向かった。今日はなんと、そこでガラス細工作りを体験できるらしい。今までにない経験なので、とても楽しみだ。工房に着くと、私たちは、そこに展示されているガラス細工作品の数々を紹介された。作品はどれもとても美しく、それぞれ個性的で、見ていて飽きないものだった。そしていよいよ、私たちはガラス細工作りへと移った。ガラスを溶かす炉などがあるので、当然作業場はとても暑かったが、職人のお兄さんの助けもあって、何とかガラスで美しいコップを作ることができた。

そして昼食にサンドイッチをもらい、私は迎えが来るまで工房内の作品をもう一度見て回ったりした後に、一度帰宅した。しばらく休んだあと、私はホストファミリーとビーチへ行った。そのすぐ近くのレストランで夕食を食べた。チーズバーガーと、ポテトフライがとても美味しかった。

鐘と夕日と私

ビーチに出ると、見渡す限りの広大な砂浜に驚いた。そして、どうやらそのビーチでは、毎晩、日が落ちると同時に選ばれた観光客が鐘を鳴らす伝統があるらしく、その日は私が鐘を鳴らさせてもらった。とても特別な体験だった。

7月25日（木）

フラミンゴと私たち

今日はサンケンガーデンという植物園を訪問した。様々な美しい植物やかわいらしいフラミンゴなどを見れて楽しかったが、見て回る時間があまりなかったのは残念だった。午後からは、セント・ピーターズバーグ市の市議会議員の方たちの前で、高松の文化を紹介するプレゼンテーションを行うという、もう一つの重大な任務があった。

市議会議員の方たちもまた、とてもフレンドリーで、話していて楽しかった。私は、讃岐三白の一つにも数えられる、和三盆についてのプレゼンテーションをした。やはり、緊張はしていたのだが、セント・ピーターズバーグ市に来てからの経験の数々のおかげか、私は以前よりも自信に溢れていた。これといった失敗もなく、満足の行く形でプレゼンテーションは成功に終わった。この日は、今回の10日間の中で最も成長を実感した日と言っていいだろう。

プレゼンテーションをする私

7月26日（金）

ダリの世界にのめりこむ私

今日は、ついにダリ美術館へ行く日だ。ダリ美術館は私が最も楽しみにしていた訪問地の一つだ。ダリ美術館には、あのチュッパチャップスのロゴの原型を作ったりもした、スペイン出身のシュルレアリスムを代表する巨匠の一人、サルバドール・ダリ氏の作品を主に展示している美術館だ。なんと、ヨーロッパ圏外では、最もダリ氏の作品を展示している美術館らしい。彼の作品は多重イメージを駆使したものも多くて、見ていて本当に飽きないものばかりであった。彼の作品は曖昧なようで、緻密な技巧で見る者の頭に彼の表現したイメージをはっきりと浮かばせるような、そんな不思議な作品だった。私はまた、時間を忘れて、作品鑑賞に耽っていた。ダリ美術館は間違いなく、いつかもう一度訪れたい場所だ。

夜は、セント・ピーターズバーグ市の研修生の、アバの家で集まり、パリオリンピック開会式記念のパーティをした。テレビで開会式の様子を見ながらみんなでピザを作ったりケーキを食べたりして、とても楽しかった。

7月27日（土）

今日は、リレンの家にみんなで集まり、少し遅れた、7月11日のアメリカ独立記念日を祝う、プールパーティをした。

プールで泳いで、ホットドッグや、ハンバーガー、かき氷やブラウニーを食べて、とても楽しい時間を過ごした。パーティが終わった後は、ソファに座ってくつろいでいると、いつの間にか眠ってしまっていた。

パーティではしゃぐ私

夜は、タンパベイ・ローディーズという、セント・ピーターズバーグ市に拠点を置く、サッカークラブの試合を見に行った。

ローディーズと私たち

最初は押され気味だったが、最後はローディーズが逆転して、見ていて気持ちよかった。セント・ピーターズバーグのチームなだけあって、観客のほとんどがローディーズを応援していて、面白かった。

セント・ピーターズバーグ市の研修生アヴァの父のケニーもローディーズの大ファンらしく、ローディーズが点を決めた時は立ち上がって全身で喜びを表現していて、とても面白かった。さらに、試合後、特別に選手たちと会わせてもらい、サインも貰った。

7月28日(日)

今日は、地元の野球チームの、タンパベイ・レイズの試合を見に行った。試合が行われたのは、レイズの本拠地でもある、トロピカーナ・フィールドという、巨大なドーム型のスタジアムだった。トロピカーナ・フィールドは珍しい密閉式のスタジアムで、スタジアム内すべてにエアコンが効いていて、とても快適だった。現在、メジャーリーグで運用されている密閉式のドーム型スタジアムはトロピカーナ・フィールドだけらしい。中には、タンパベイ・レイズのチーム名の由来にもなった、エイが入った大きな水槽があった。試合を見てしばらくすると、レイズのチームマスコットの、DJ キティーがやってきて、ハイタッチをしたりして、とても愉快だった。

DJ キティーと私

ボートでの私たち

試合が終わった後は、埠頭の方へ行き、タンパ湾をボートで巡るクルーズを楽しんだ。そのツアーでは、ペリカンをはじめ、様々な水鳥や、イルカを見ることができた。一度イルカの家族がボートのすぐそばまで来て、ジャンプを披露してくれた。あんなに間近でイルカを見るのは初めてのことだったので、そのような経験ができて、とても満足だ。アメリカに来てからは、毎日が新鮮な体験に溢れていた。

7月29日(月)

今日は、世界最大のディスニーリゾートである、ディズニー・ワールドへ行く日だディズニー・ワールドは日本のディズニー・ランドなどとは違い、敷地内に複数のパークとエリアがあり、今回行くのはそのパークの一つ、エプコットだ。エプコットへは、セント・ピーターズバーグ市の研修生マディソンの父、ティムが運転してくれたのだが、そこで途中からリレンとティムがプログラミングについての話を熱烈に語りだして、私はまったくついていけなかった。そうしているうちに、私たちはエプコットについた。エプコットには、大きく分けると、未来都市をイメージして作られたフューチャー・ワールドや、世界 11 か国の食事や文化を体験できるワールド・ショーケースなどのエリアがあった。エプコットだけでも日本のディズニー・ランドと同じくらい大きくて、この規模のパークがあと 3 つもあるという事実に、驚きを隠せなかった。エプコットに入ると、まず私たちはガーディアンズ・オブ・ギャラクシーの屋内ジェットコースター

エプコットでの私たち

に乗った。私はそんなにジェットコースターが得意ではないので、乗る前はずっと怯えていて、乗ってからも怖くて目を閉じてることが多かった。だが、終わってみるとそのスリル感がすごく楽しくて、勇気を出して乗ってよかったと思った。その後は、ソアリン・アラウンド・ザ・ワールドという、ブランコのような席が上昇して、大型スクリーンの前に行き、まるでそこに映し出された世界中の遺跡や大自然の上を飛んでいるかのような体験ができるアトラクションを乗りにいった。みんなと話しながら一時間ほど列で待ってから、ソアリンに乗った。ソアリンのスクリーンに映し出される映像は、スクリーンであることを忘れるほど壮大で没入感があり、世界を羽ばたく鳥になったような気分だった。そして、私たちはカフェエリアで軽く昼食をとってから、いよいよワールド・ショーケースエリアへ向かった。

ワールド・ショーケースエリアは、園内の大きな湖をぐるっと一周するように、アメリカ、日本、フランス、メキシコなど、11 の国のパビリオンが連なっていて、すべて回るのには、かなりの時間がかかった。中でも、私のお気に入りのパビリオンは、メキシコ館とモロッコ館、そしてイギリス、フランスなどのヨーロッパの国のパビリオンだ。メキシコ館には、マヤ文明を思わせる大きなピラミッドがあり、そしてなんとピラミッドの内部には夜のバザールの光景が広がっていた。ピラミッドの内部に夜のバザールを演出するディズニーのセンスには脱帽した。モロッコ館ではカサブランカ、フェズ、マラケシュの都市の街並みを楽しむことができた。各所にちりばめられたモザイクアートが美しかったのを覚えている。そして、奥に進むとバザー風のお店やレストランが並んでいて、とてもワクワクした。イギリス館は、英国の村を思わせるパビリオンで、様々な様式の建築物がとてもオシャレだった。また､不思議の国のアリスに登場するアリスにも会うことができた。フランス館はパリをテーマにしていて、小さいエッフェル塔があって、可愛かった。パリオリンピックが開催されている今の時期にぴったりのパビリオンだった。また、フランス館のカフェでスイーツを食べたのだが、そのクリームブリュレが絶品だった。今日はとても疲れたが、とても楽しい一日だった。

7月 30 日（火）

高校見学する私たち

今日は、アヴァの通っている高校である、セント・ピーターズバーグカトリック高校を見学しに行った。見学していて、この高校はかなりアートに力を入れているということに気づいた。美術室や彫刻室は設備が充実しているし、なにより、美術の授業は生徒の主体性と独自性を重視していて、どんな作品を作るかは、生徒が自由に決めていいらしい。また、この高校では卒業生はクラスで協力して最後に壁にアートを施す伝統があるらしい。そしてそれとは別に、校舎の随所に壁画などのアートが見られて、興味深かかった。

そして驚いたのが、体育館とは別に歌やショーを披露するためのステージがあったのだ。また、体育館の中にエアコンが効いていることにも驚いた。私の高校の体育館にもぜひほしいものだ。

高校を見学した後は、いよいよ、送別夕食会だ。もう日本に帰らなければいけないと思うと、とても名残惜しかった。

夕食会でしばらく会話しながら食事を楽しんでいると、私たちはそれぞれ折り紙が貼られた色紙を貰い、それにみんなでメッセージを書きあった。みんなからの想いがこもったこの色紙は、私の一生の宝物だ。夕食会が終わったあと、私とリレンとデリックで、フォート・デソトという、海岸の要塞跡を見に行った。要塞はとても大きくて、砲台もたくさんあり、海からくる外敵を防ぐために建てられたそうなのだが、幸い、一度も使われることなくその役目を終えたらしい。

家に帰ると、私は散らかった荷物を、10 日間の思い出とともに、スーツケースの中にしまった。明日セント・ピーターズバーグ市から飛び立ってしまうことが信じられない気持ちだった。

7月 31 日（水）

今日はとうとう、セント・ピーターズバーグ市を出て日本に帰る日だ。昨夜は片づける荷物があまりに多くて夜更かししてしまい、あまり眠れなかったのだが、どうせ飛行機内でたくさん寝るのだから、あまり気にせずに部屋を出た。犬のキキとはここでお別れとなるので、出発前に思う存分戯れておいた。その後、私たちはタンパ空港へ向かった。そこで、セント･ピーターズバーグ市のホストファミリーや研修生のみんなと最後の別れの言葉を交わした。もう当分は会えないんだろうなと思うと、とても悲しかったが、いつか必ずまた会いに行くと約束したので、涙をぐっとこらえて前に進んだ。振り返ると、彼らは私が見えなくなるまでずっと手を振ってくれていて、また涙が溢れそうになった。飛行機に乗ったあと、私は案の定、すぐ眠りについたので、気づけばあっという間にフライトは終わっていた。帰りの空港は行きのときほど混雑していなくて安心した。

8月１日（木）

高松空港について、迎えに来た母の顔を見ると、帰ってきたという安心感と、アメリカでの楽しい日々は終わってしまったのだなという虚しさが同時にこみあげてきた。様々な困難もあった旅だが、やはり思い返してみると、ただただ楽しい日々だった。今回の研修で私は数々の学びや気づきを得て、かつてないほど成長したと思う。

親善研修生　報告書Ⅰ

感想文

私に成長をもたらしてくれた研修

香川県立高松商業高等学校　3年
市橋　怜

私が今回の研修で得た経験は、どれも普段の私では得られない経験ばかりで、その10日間は私にとってまさに、「成長と発見」の10日間でした。

私は幼少期をニュージーランドで過ごしたので、英語はそれなりに話せるのですが、日本に住み始めると、いつからか恥ずかしがって人前ではほとんど英語を話さなくなっていました。そんな私ですが、今回の研修では、できる限り多くの人と会話して交流することを目指しました。最初は、どんなことを話せばいいのか、また、自分の英語がどれだけ通用するのかまったく分からず、なかなか目標どおりに積極的に会話することはできませんでした。ですが、私を受け入れてくれたホストファミリーをはじめ、私が現地で出会って交流した人々はみな、とても優しくて親しみやすく、私は彼らとの交流で数えきれないほど多くのことを学びました。彼らは私に、それまでほとんどなにも知らなかった、セント・ピーターズバーグ市のことも、たくさん教えてくれました。また、彼らと話すのはとても楽しくて、私は自分の英語に対する自信を取り戻すことができました。彼らとの出会いは間違いなく、私の人生において最大の財産です。彼らにはいくら感謝してもしたりないのですが、いつか必ず、もう一度会いに行って、直接感謝を述べたいと思います。

私が今回の研修で、このような成長をすることができたのは、いつもよりも積極的に物事に取り組んだからだと思います。きっと、私がいつも通りの消極的な態度で過ごしていたら、ここまでの収穫を得られなかったと思います。ですから、私は、今回の研修で得た様々な気づきや、経験と知識を、今後に活かしてさらなる成長を遂げることを目標に、これからも積極的に物事に取り組んで行きたいです。

親善研修生　報告書　Ⅱ

親善研修生　報告書Ⅱ

日誌・活動記録

香川県立三木高等学校１年　菅　紅羽

7月22日(月)

この日はとても早起きでした。高松空港から羽田行きの飛行機が、朝７時に離陸するということもあり、5時半に高松空港に集合しました。初めて、家族と離れて10日間もアメリカに行くということへの期待と緊張で胸がいっぱいでした。私の家庭では、父の影響もあり、小さな頃から毎年、色々な国の人達のホームステイを受け入れていました。その影響で私も、小さな頃から英語に触れ、コミュニケーションをとってきました。

羽田空港で出発前の１枚

私の兄もこのプログラムで親善研修生として、セント・ピーターズバーグ市に行きました。小学4年生だった私は、その事を鮮明に覚えています。しかし、新型コロナウイルスの影響もあり、国際交流ができなくなってしまいました。5年ぶりに国際交流ができる節目として、自分の成長、殻を破るという決意も込め、この親善研修生に応募しました。高松市の代表として、日本の文化を自分なりに伝えようという大きな目標を持ち、この日を迎えました。

高松空港で自分たちの家族とお別れする時は少し寂しかったです。羽田空港で、日本食とお別れのセレモニーとして、みんなでおにぎりを食べました。羽田空港からシカゴ空港までは約12時間ほどであり、その間私たちは映画を見たり、寝たり、ご飯を食べたりして過ごしていました。3人で話したりする時間は楽しかったのですが、12時間もの長い時間は気が遠くなりそうでした。シカゴ空港までの残りの3時間に、一橋くんと原田さんと私の3人で絵しりとりをしました。

長い長いフライトを終えた私たちを待っていたのは、数日前のシステム障害による影響と思われる税関の長い列という地獄でした。3時間も並び、ようやく税関を通る事が出来ました。重い荷物を取り、税関を通ろうとしたとき、市橋くんが、税関の紙を失くし、出られなくなってしまいました。この時は、シカゴ空港からタンパ空港までの飛行機の時間が迫っていたので、すごく焦りました。しかし、市橋くんは英語が堪能だったことと、空港でガイドさんが乗り口まで案内してくれたこともあり、ギリギリ飛行機に乗ることが出来ました。

シカゴ空港からタンパ空港までは約3時間でした。タンパ空港でゲートを抜けるとアヴァの顔が見えて少しほっとしました。アヴァは私と同じようにセント・ピーターズバーグ市から親善研修生として高松に来ており、私の家に9日間滞在していました。アヴァのお父さんとお母さんに初めて会い、少し緊張したまま、車に乗って家に向かいました。家につくと私用の一人部屋が用意されており、小さい頃テレビで見ていたアメリカのドラマの主人公になったような気持ちになりました。アヴァの家はお父さんのケニー、お母さんのサラ、飼い犬のルルが生活しています。アヴァには歳の離れたお姉

タンパ空港でホストファミリーと

さんとお兄さんもいるとのことでした。

1日目の夜はビーチの近くにあるスラッピー・ジョーというお店で研修生3人と、それぞれのホストファミリー達とご飯を食べました。長時間のフライトにより疲れ切った私の体は、アメリカの料理をあまり受け付けることができませんでした。そんな様子を見たアヴァが私に、お皿いっぱいに入ったフライドポテトを頼んでくれました。最後まで食べられずにいる私のために、アヴァがお持ち帰り用のパックを頼んでくれました。アメリカのほとんどのレストランでは、残った料理を持って帰る事が出来るように、パックがあるお店が多いそうです。夕食会が終わり、家に帰るとアヴァの飼い犬のルルが待っていました。家の説明をしてもらい、少しだけホストファミリーと話して、ふかふかのベッドで眠りにつきました。

7月23日（火）

この日は前日の長いフライトもあり、朝の9時ぐらいに目が覚めました。まだ少し緊張していたので、ドキドキしながらリビングに行くと、ホストマザーのサラがいて少し話したあと、朝ごはんを用意してくれました。この日の朝ごはんのメニューは、冷凍のワッフル2枚とシャインマスカット、そして1日目の夜に持って帰ってきたポテトフライでした。

ジェームズ美術館

ゆっくりとした朝食をとったあとに、サラとアヴァが私を商店街のような所に連れて行ってくれました。アクセサリー屋さんに入ると、定員さんが話しかけてくれました。日本から親善研修生として来ていることを伝えると、「私達の市に来てくれてありがとう。10日間楽しんでください。」など、沢山の温かい言葉をかけてくれました。どのお店に行ってもとても温かく迎えてくださって、とても嬉しかったです。街にはいたるところにウォールアートがあって、とても面白かったです。日本にはあまりウォールアートがないので新鮮でした。

1時間ほどショッピングを楽しんだあとに、私とアヴァが大好きなタピオカドリンクのお店に行きました。私は抹茶のタピオカドリンクを頼んだのですが、サイズがとても大きくて、味も甘くて最後まで飲み切ることができませんでした。とても大きなタピオカドリンクを飲んだので、お昼ごはんの時間にはお腹が空いていませんでした。その事をサラに伝えると、ジェームズ美術館の隣にある飲食店で軽食として、プレッツェルを買ってくれました。このお店のプレッツェルはとても美味しかったです。

ウェルチ市長と

軽食を食べたあと、市橋くんと原田さんとそのホストファミリー達と合流し、ジェームズ美術館の施設内を見学しました。この美術館では、ネイティブアメリカンが描かれた作品

とともに、アメリカの民族の歴史を学ぶことができます。同じセント・ピーターズバーグ市の親善研修生であるリレンのお父さんのデリックさんが、何を質問しても答えてくれて、地図を用いて説明してくれてわかりやすかったです。一通り美術館を見学したあと、みんなでスターバックスに行きました。アヴァが日本に来たときに紹介してくれた、アメリカのスターバックスの人気メニューのケーキポップ（ケーキが飴のように棒に刺さっているデザート）と桃のレモネードを買いました。ケーキポップは、しっとりとしたケーキの生地がチョコでコーティングされていて、とても美味しかったです。

念願のアメリカのスターバックスを堪能したあと、歓迎夕食会の準備のために、リレンの家に向かいました。リレンの家はプールがあってとても綺麗でした。リレンの家でみんなで浴衣を着たあとに、夕食会場に行きました。そして、セント・ピーターズバーグ市のウェルチ市長にお会いしました。フランクに優しく話しかけてくださる素敵な方でした。しかし、私はウェルチ市長へのお土産の紹介文の練習をするのを忘れてしまっていて、うまく読むことができませんでした。その後家に帰り、一人で反省会をしました。高松市の代表として、もう少し気を引き締めようと決意し、眠りに就きました。

7月24日（水）

この日はガラス作りのワークショップに行きました。ガラス作家のダンカン・マクレランさんのアトリエに行きました。ガラスからできているとは信じられないくらい綺麗な作品が、たくさんありました。一番好きだった作品は、紫色のガラスで作られている女の人が、電気を消すと、青色に変わるという作品でした。日本人の作家さんが作ったガラス作品もあり、少し驚きました。一番驚いたのは、ガラスなどの割れ物がたくさんあるアトリエでたくさん猫を飼っていることです。猫がぶつかって割れたことが無いのか少し気になってしまいました。ガラスの説明を聞いたあと、ガラスのコップ作りをしました。初めに、熱したガラスからコップを作りました。私は青色と紫色のマーブルのコップを作りました。工房はガラスを熱しているので、とても暑かったです。インストラクターのお兄さんと途中まで作っていたのですが、インストラクターのお兄さんがもう一度熱してくれるときに、接着が甘かったのか、落ちて割れてしまいました。初めてのコップづくりで愛着が湧いていたので､少し悲しかったです。でも､お兄さんがすぐにもう一度やり直させてくれて、最終的には、とても素敵なコップが出来上がりました。2つ目に作ったコップは、シールを切り貼りして､模様をつけるコップを作りました。ホストマザーのサラやアヴァ､市橋くんと､出来上がったコップを見せ合うのがとても楽しかったです。

ガラスコップづくり

コップづくりが終わり、昼食をとりました。SPIFFS（セント・ピーターズバーグ国際民族会）の方々が用意してくださったサンドイッチを食べました。サンドイッチはフランスパン一本にたくさん具材が挟まれていて、アメリカンサイズで、食べきれませんでした。1本が半分にカットされていたのですが、半分も食べられなくて、原田さんが少し食べてくれました。市橋くんは、一本をほぼ一人で食べていてびっくりしました。

たくさん昼食をとったあと、私のホストマザーのサラの車で、原田さんとアヴァも一緒に、アメリカのスーパーマーケット巡りをしました。初めに、Trader Joe's というスーパーマーケットに行き

ました。このお店にあるエコバッグがとても可愛かったです。お店の前の床に誰かがチョークで書いた「Love」と言う落書きがあり、少しほっこりした気持ちになりました。次はアメリカにあるとても大きなスーパーマーケットのTargetにいきました。想像していた何倍も大きくて､びっくりしました。そして、それだけの大きさなのに、全て一階建てということに、アメリカの土地の広大さを実感しました。Targetではお土産を買ったりして楽しみました。

ケニーの手料理

その後、家に帰ると、ホストファザーのケニーが夕食の準備をしていました。そして、夕食会には、アヴァの彼氏と、お姉さんが来てくれました。二人ともとても優しくて楽しかったです。お姉さんは私のことをたくさん褒めてくれて、嬉しかったです。ご飯を食べたあと、ケニーの車に乗り、アヴァとアヴァの彼氏、お姉さんと５人で海辺にある人気のキャンディーショップに行きました。日本でいうと駄菓子屋さんのような感じの場所でした。老若男女問わず愛されているキャンディーショップで、店内は甘い匂いがして、砂糖がこぼれているのか、床がザラザラしていました。ケニーが私にお菓子を買ってくれて、食べたことのないアメリカのおやつにワクワクしました。夕食会が終わり、アヴァの彼氏とお姉さんが帰った後は、家族みんなでお菓子パーティーをしました。全部美味しくて、楽しかったです。

７月25日(木)

高松のプレゼンテーション中

この日は朝からとても緊張していました。なぜなら午後に市役所で高松市紹介のプレゼンテーションがあったからです。ドキドキしながら、リビングに行くと、サラが朝ごはんを作ってくれました。準備を終え、家を出て、車にのり、ホストマザーのサラの職場のサンケンガーデンという植物園を見学しに行きました。そこは百年前はある家族の家であり、その人達が植えた植物が今でも残っていると知りました。そこにはフラミンゴがたくさん飼育されていました。ガイドの方がわかりやすい英語でゆっくり話してくださって、とても助かりました。何よりびっくりしたのは、池の中に鯉が泳いでいたことです。サンケンガーデンの方々はcarpと呼ばずにコイと呼んでいるのが少し嬉しかったです。

見学が終わり、ついにプレゼンテーションの時間が来ました。プレゼンテーションの前にサラが、「緊張したら、アヴァの顔を見るんだよ。」と言ってくれました。私は屋島について紹介しました。屋島のふもとで行われた源平合戦の英雄として伝えられている那須与一や、四国88ヶ所、お遍路巡りを作った弘法大師を助けたとされている屋島太三郎狸の伝説について話しました。とても緊張して、少し詰まったりはしましたが、皆さんが優しく見守ってくださったり、質問をしてくださったりしました。あんなにも緊張していたのが嘘みたいに一瞬で終わりました。会議所の方々とお話したり、写真を撮ったりとても楽しかったです。ウェルチ市長にもお会いできて、市長のお部屋を見せていただきました。経験したことのないことばかりで楽しかったです。

プレゼンテーションが無事終わり、ご褒美にサラが私の大好きなクッキーモンスターのエリアがあ

る遊園地に連れて行ってくれました。遊園地には、とても大きなジェットコースターやレストラン、お土産屋さんがたくさんありました。それだけでなく、カバやハイエナなどの動物もいて、遊園地と動物園を同時に楽しめる夢のような施設でした。待ちに待ったセサミ・ストリートのエリアではたくさんのクッキーモンスターグッズがあり、ワクワクしました。そして、サラが私にクッキーモンスターのぬいぐるみや、ブランケット、ノートやペンなどをプレゼントしてくれました。とても幸せな時間でした。その後、3人でセサミ・ストリートのショーを観に行きました。私たち以外の観客は小さな子ども連ればかりで少し恥ずかしかったです。とても楽しみにしていたショーは、遅延したあとに中止になり少し悲しかったけれど、私のために遊園地に連れてきてくれたサラたちの事がもっともっと大好きになりました。

クッキーモンスターとツーショット

帰りに夜ご飯を買いにChick-fil-A というアメリカで大人気のチキン屋さんに来ました。スパイシーチキンサンドイッチのセットを持ち帰り、家で食べました。セットに付いている、フライドポテトにつけて食べるChick-fil-Aソースがアメリカの食事の中で一番美味しかったです。ご飯を食べたあと、シャワーを浴び、アヴァとNetflixで日本のドラマを観ました。アヴァの一番好きなドラマが日本のドラマということが嬉しかったです。そして、飼い犬のルルと遊んだり、ルルを撫でたり、とても充実した時間を過ごしました。

7月26日(金)

この日は朝起きると、冷房による乾燥からか、喉を少し痛めてしまいました。朝からサラがソーセージを焼いてくれて、ソーセージといつものワッフルという最高の朝食で1日をスタートしました。ご飯を食べたあとに、アヴァとテレビを見たり、ルルと遊んだりして朝を過ごしました。今日はダリ美術館に見学に行くので、部屋で準備をしていると、ドアがちゃんと閉まっていなかったのか、ルルが、ドアを鼻で開けて入ってきました。ルルはすぐに私を新しい家族のように受け入れてくれて、とても嬉しかったです。

サルバドール・ダリと一緒に

準備を終え、車に乗りダリ美術館に向かいました。ダリ美術館に行く途中に、アヴァがパイロットになるために通っている飛行場がありました。街の真ん中に飛行場を作ることのできるアメリカの土地の広さを再確認しました。その飛行場には、飛行機がたくさん停まっていて、とてもかっこよかったです。ダリ美術館に着き、駐車場で係員さんに駐車スペースを聞こうとし、車の窓を開けたとき、サラの車の窓が今にも壊れそうな音を出しながら閉まらなくなってしまいました。車が壊れて、悲しんでいるサラの前で私とアヴァが大爆笑してしまい、少し申し訳なかったです。

ダリ美術館に入ると、お土産屋さんが初めに目につきました。その中に、ダリと一緒に写真を撮れる面白い機械があり、市橋くんと原田さんと私で、ダリと写真を撮りました。ダリ美術館に飾られて

いるダリの絵はとても素敵でしたが、解説には少し理解不能なことも書かれており、面白かったです。一通り美術館を見学したあとに、美術館の下にあるカフェに行きました。サラが私と原田さんに、ハイビスカスのお茶を買ってくれました。その後に、美術館の外にある庭で大きなダリのヒゲを見ました。

ダリ美術館を満喫したあと家に帰ると、私の喉はもっとひどくなってしまいました。サラに迷惑をかけると思い、相談していなかったのですが、ちゃんと伝えるべきだと思い、伝えると、喉に効くお茶を入れてくれました。お茶は漢方の味がしたけど、喉が少し楽になりました。夜には、家でみんなを招いてパーティーをするので、数日しか経ってないのに、物で溢れている私の部屋を片付けました。部屋を片付けたあとは、またアヴァと一緒にテレビを見て過ごしました。今日のパーティーはピザパーティーでした。ホストファザーのケニーが作り方を教えてくれて、市橋くんと原田さんと私の三人で生地を伸ばし、ソースを塗って、具材やチーズをトッピングして作りました。ピザを作るのが初めてだったのでとても楽しかったです。そして自分で作ったピザはとても美味しかったです。その後、日本から持ってきた習字道具で、リレンやマディソン、アヴァの名前を当て字の漢字で色紙に書いてプレゼントしました。習字は上手くないけれど、とても喜んでくれました。この日は丁度パリオリンピックの開会式だったので、オリンピックの開会式の実況を見ながらパーティーをしました。アメリカと日本が映ったときは、みんなで盛り上がりました。そして、SPIFFS の方が持ってきてくれた、クッキーケーキを食べました。クッキーケーキを撮るときに、リレンのお父さんのディレックさんが私のクッキーモンスターを持ってきて、クッキーケーキと一緒に写真を撮っていたのが面白かったです。

みんなでピザづくり

私は小さな頃からミュージカルをしていたので歌うのが得意で、アメリカでみんなの前で歌いたかったのですが、喉を痛めてしまったため、残念ながら歌えませんでした。そのことを、今でも後悔しています。でも、みんなで折り紙をしたり、料理をしたりできて楽しかったです。何より嬉しかったのが、原田さんが、日本から持ってきた調味料でお好み焼きを作ってくれたことです。日本食が少し恋しくなっていたので、普段の数倍美味しかったです。みんなにもお好み焼きは好評だということがわかりました。私が日本から持ってきていた駄菓子や、お土産を机の上に出しておくと、サンリオのグッズや、バスボムが人気でした。リレンがおにぎりせんべいに挑戦していましたが、醤油味があまり合わなかったようです。その後はみんなでアメリカの酸っぱいお菓子のノーリアクションチャレンジをして遊び、楽しかったパーティーも終わりました。みんなが帰り片付けをしたあとにシャワーを浴び、ベッドに入ると、すぐに眠りにつきました。

7月27日(土)

この日は前日夜ふかしだったこともあり、朝の9時ぐらいに目が覚めました。少し寝すぎたかなと思いながら、部屋のドアに手をかけると、飼い犬のルルが、フローリングの上を走る音がしました。ドアを開けると、目の前にルルがいて尻尾を振って喜んでくれました。どうやらまだみんな起きていなくて、一人でずっと待っていたみたいでした。

ルルとリビングでごろごろしていると、アヴァが起きてきました。そして、お母さんも起きてきた

あとにアヴァが自分の車でダンキンドーナツに連れて行ってくれると言いました。アメリカでは16歳頃から運転ができるので、アヴァも毎日学校まで自分の車で行っていると聞きました。アヴァの車に乗るのは正直少し怖くて、ドキドキのドライブでした。10分くらいでダンキンドーナツに到着し、アヴァはキャラメルラテ、私は抹茶ラテを頼みました。家に帰って、先日アメリカにある大きなスーパーマーケットの、Targetで買ったドーナツとクッキーを食べました。ドーナツとクッキーはアメリカの国旗の色にアイシングされており、青いドーナツを食べました。青いドーナツの中には、ブルーベリージャムが入っていて、甘すぎず、とても美味しかったです。クッキーは見た目とは裏腹に、とても甘くて、食べるのが大変でした。

この日は午後から市橋くんのホストファミリーのキルボン家のプールでプールパーティーをすることになっていたので、水着やプールグッズをリュックに詰めて、車でキルボン家へ向かいました。向かっている途中で、日本では経験したことがないくらいの強雨と、雷が鳴っていました。雷に驚いている私に、ホストファミリーが大爆笑していました。フロリダは雷がとても大きな音で鳴っていて少し怖かったです。キルボン家につき、みんなに挨拶したあと、雨が止むまでゲームをして遊びました。ようやく雨がやみプールに入りました。あまり泳ぎが上手ではないので、浮き輪で浮いていると、足のつかない深い所に来てしまい困っていると、リレンの妹のエティが助けに来てくれました。市橋くんと原田さんと3人で泳いでいると､ホストファミリー達に｢君たち何歳なの？｣と聞かれました。市橋くんと原田さんは高校3年生の17歳なのに対し、私は高校1年生の15歳であることを伝えると、お母さんたちに｢ベイビーくれは｣と呼ばれてしまって少し恥ずかしかったです。みんなで水上バレーボールをしたり、ブラウニーを食べたりしてとても楽しかったです。

プールパーティー

プールから出るとリレンのお父さんのデリックさんが裏庭のグリルで、ホットドッグ用のソーセージと、ハンバーガー用のパティを焼いてくれていました。焼いているのを待つ時間、エティが作ってくれたかき氷を食べました。プールから上がって濡れている状態で食べるかき氷は流石に寒かったです。かき氷を食べていると、裏庭の木に取り付けている鳥のかごに、赤色の鳥が食べに来ていました。日本では見られないような鳥が飛んでいて、面白かったです。ソーセージが焼けて、自分でパンに挟んで食べると最高に美味しかったです。そして、リレンのお母さんのサラさんが作ってくれたパスタサラダもとても美味しかったです。ハンバーガーもグリルで焼いたパティが分厚くて最高でした。

ローディーズの選手と

ご飯を食べたあと、シャワーを借りて、緑のTシャツに着替え、そのままみんなでローディーズというチームのサッカー観戦をしに行きました。私のホストファザーのケニーはローディーズのファンなので、とっても楽しそうで良かったです。サッカー観戦は初めてだったけど、ローディーズが4対2で勝利し、嬉しかったです。観戦が終わりかけた頃、アヴァたちが急に立ち上がり行くよと言って来ました。急な事に驚いているとアヴァが「選手達と会いに行くよ」と言い、もっと驚きました。さっ

きまでプレーをしていた人たちと会うということに実感がわかないまま、ローディーズの方々とお会いし、たくさんサインをいただきました。夢のような時間でした。サッカー観戦が終わり、遅めの夜ご飯を帰り道に買いに行きました。ケニーに何が食べたいか聞かれると私はいつもバーガーキングと答えていたので、ケニーが面白がってバーガーキングに連れて行ってくれました。夜の 10 時に食べるバーガーキングは背徳感がすごかったです。プールパーティーの後のサッカー観戦により、クタクタだったので、ベッドに入るとすぐに眠りにつきました。

7 月 28 日(日)

この日の朝ごはんは、サラが焼いてくれたベーコンとビスケットでした。ベーコンはカリカリで美味しかったです。ビスケットもメープルシロップをかけるととても美味しかったです。今日は野球チームタンパベイレイズの野球観戦をしにいくので、サラが買ってくれたレイズの T シャツに着替え、家を出ました。野球場はとても大きいのに、野球ドーム全体に冷房が効いていて、アメリカのスケールの大きさを実感しました。レイズのシンボルはエイで、ドームの中にはエイがたくさん泳いでいる水槽がありました。とても可愛かったです。野球観戦は、電子掲示板に「Make some noise」と掲示された途端みんなが叫んだり、手を叩いたりしていてとても賑やかでした。ホストファザーのケニーが、プレッツェルを売店で買ってきてくれました。プレッツェルは上が真っ白になるくらい塩がかかっていて、美味しかったけど塩辛かったです。ゲームが後半に入ると、私達の席にタンパベイレイズのマスコットキャラクターの DJ キティーがやって来てハイタッチをしてくれたかと思えば、私達の後ろの席に座って、一緒に野球観戦をしだしました。アメリカの人たちは本当に気さくで、ノリのよい人達が多くて、話しているととても元気が湧きました。ライオン・キングの音楽が流れたときに、周りの子連れのお父さんたちがお子さんを抱っこしてカメラにアピールしているのを見た DJ キティーが、市橋くんを抱っこして、アピールしていたのに、カメラが写してくれなくて、拗ねていたのがとても可愛かったです。

タンパベイレイズの観戦が終わり、みんなで船に乗って、イルカを観に行くツアーに行きました。船に乗った途端に、市橋くんが爆睡しだして、少しびっくりしました。驚いたのもつかの間、今度は私が船酔いしてしまい、お薬を飲むと、副作用からか、眠くなってしまい少し寝てしまいました。イルカが遠くにいるよとホストマザーのサラが起こしてくれました。遠くを見ると、イルカがジャンプしていました。すると船長さんがイルカの近くに船を動かしてくれて、船の真横で跳ねるイルカ達をみることができました。帰り道で、原田さんと、リレンの妹のエティと一緒にタイタニックのあの有名なポーズを再現して、写真を撮ったりして遊びました。

原田さんとタイタニックのポーズ

楽しいイルカツアーが終わり、家に帰る途中で、今日の夜に食べたいものを聞かれました。私が「バーガーキング」と言おうとすると、ケニーが「バーガーキング以外で」とふざけて言ったので、結局、ケンタッキーフライドチキンに行くことにし、ケンタッキーを食べて、シャワーを浴び、リビングでゆっくりしていると、ホストファザーのケニーが「日本の人は、写真を撮る時にピースサインをするけど何ていう意味なの？」と聞かれ、なぜか分からなかった私は、

困惑してしまいました。ケニーはいつも日本に興味を持ってくれていて、少し嬉しいのと同時に、アメリカと日本の違いを実感しました。

7月29日(月)

この日は6時に起き、準備をして、7時に家を出ました。なぜなら、今日は待ちに待ったフロリダディズニーのエプコットに行く日だったからです。ワクワクしながら車に乗り、ディズニーの音楽をかけて、ノリノリで向かいました。チケットはホストマザーのサラが買ってくれました。そこにつくと、エプコットのシンボルの大きなドームが見えました。人生でもう二度と行くことのできないだろう、フロリダディズニーに今いることを実感すると、ワクワクとドキドキが止まりませんでした。私は絶叫系のジェットコースターが苦手なので、極力乗らないようにしていました。しかし、アヴァがガーディアンズオブギャラクシーの室内ジェットコースターに誘ってきてくれました。アヴァいわく、上下の動きがなくて怖くないと言っていました。少しドキドキしながら列に並び、ジェットコースターに乗りました。アヴァは上下の動きがないと言っていましたが、しっかりあったし、聞いていなかった背中から落ちていくタイプのジェットコースターでとても怖かったけど、楽しかったです。

エプコットのシンボルの前で

みんなで軽食としてお子様ランチのような物を食べましたが、お子様ランチなのにお腹がいっぱいになりました。エプコットの最大の特徴は色んな国の街を再現したエリアがあることです。そして、そのエリアにいるキャストさん達はその国から来た人たちだそうです。フランスのエリアには小さなエッフェル塔と、フランスの街にありそうなケーキ屋さんがあり、そこでケーキを食べました。日本の街を再現したエリアでは、再現度が思ったより高くて、一時帰国した気分になりました。日本エリアの中には三越があり、三越の中のキャストさんの業務連絡が日本語で行われていて、少し嬉しかったし、安心しました。

エプコットの石像の前でリレンと

エプコットには、日本のディズニーには無い、モアナと伝説の海のエリアがあって、主人公のように、水を操る事ができる仕掛けがたくさんあって感動しました。お土産屋さんにもとてもおもしろいものがたくさんありました。グッズの種類の多さにびっくりしました。最後にファインディング・ニモのアトラクションに乗りました。そのアトラクションの中では、本物の魚を水槽で飼っており、水族館みたいで素敵でした。1日中エプコットを満喫し、興奮したまま、車に乗りました。帰りは市橋くんとリレンも一緒に車に乗って、帰りました。市橋くんと私は後ろの席で2人で爆睡していました。何だか眩しいと思ったらアヴァとリレンがフラッシュをたいて私達の寝顔を撮影していました。少し恥ずかしかったです。家についたときにはすっかり夜遅くなっていて、急いでシャワーを浴びて、寝ました。

7月30日(火)

アヴァの高校で

今日はアヴァの通っているセント・ピーターズバーグカトリック高校の見学に行きました。プライベート高校なので、普段は入れないらしく、とても特別な経験になりました。アヴァの学校は、とても大きな演劇用のホールがあったり、放送部の部屋があったりと、とても素敵な高校でした。小さな頃に見ていたアメリカのドラマに出てきたままのロッカーや、カフェテリアがとても羨ましかったです。カトリックの高校なので、教会もありました。体育館には冷房もついていて、自分の学校とは全然違いました。アメリカンフットボール部の部室にも行きました。私はあまり感じなかったのですが、みんなが汗臭いと言っていて面白かったです。アヴァの駐車スペースには自分で描いたイラストと名前があって可愛かったです。カフェテリアの方が私達に無料でお菓子や、ジュースをくれました。飲んだことのないチョコミルクは美味しかったです。

アヴァの学校見学が終わったあとに、Target でたくさんお土産を買い、大好きな Chick-fil-A でチキンサンドを買いました。Chick-fil-A のソースをとても気に入っていると、お土産として、サラが3本 Chick-fil-A ソースを渡してくれました。その後 SPIFFS の方々が用意してくださったお別れパーティーに自分の高校の制服を着て行きました。お別れのメッセージカードにサインを書きあったりして、別れを惜しみました。この10日間長いようで一瞬でした。みんなとお別れするのがすごく寂しくて、今にも泣きそうでした。

みんなからもらったメッセージカード

家に帰り、悲しい気持ちのままパッキングをしました。パッキングが一段落つき、ベッドでゴロゴロしていると、ベッドの横から白いふわふわしたものがチラッと見えました。部屋には私しかいなかったので、恐る恐る覗いてみると、私のベッドに必死に登ろうとしている、飼い犬のルルがいました。少し開いていたドアからまたルルが入ってきていました。ルルともお別れしなければいけない寂しさが急に押し寄せてきました。そして、必死に這い上がろうとしているルルを抱っこし、ベッドに乗せてあげて、少しだけ一緒に寝ました。そして、リビングに戻ると、ホストファザーのケニーが、オリンピックを観ていて、二人でゆっくり話をしました。「君は本当の家族だ。愛してる」と言ってくれて本当に泣きそうでした。

7月31日(水)

この日は朝の4時半にタンパ空港に集合だったので、3時に起きて、3時半に家を出ました。キャリーケースに詰め忘れたものはないかホストマザーのサラが確認してくれていると、ケニーが忘れ物があ

るよと言ってルルを持ってきました。いつもジョークを言って笑わしてくれるケニーも、優しくて本当のお母さんのようなサラも、妹のように面倒を見てくれるお姉ちゃんのようなアヴァも、家族のように甘えてきてくれるルルも大好きです。本当に別れるのは寂しかったけれど、私はアメリカで経験した事を一生忘れないと思います。空港で、リレンのお父さんのデリックさんが、バーガーキングが好きな私のためにバーガーキングの子供用の紙でできた王冠をプレゼントしてくれました。とても嬉しかったです。長いはずの時間が、あっという間に過ぎて、お別れのときが来ました。みんなとハグをし、別れの言葉を交わしました。アヴァとケニー、サラは泣いていてほんとうは泣きそうでたまらなかったけれど、強がって泣くことができませんでした。帰りの飛行機は行きの飛行機よりも短く感じ、途中でアヴァたちのことを思い出して、泣きそうになりました。でもサラがプレゼントしてくれたクッキーモンスターを抱きながら飛行機の中で眠りにつきました。

ルルとのお別れ

8月1日(木)

朝起きるとまだ飛行機の中で、少し不思議な気持ちになりました。飛行機をたくさん乗り継いで、やっと日本に着きました。空港のあちこちから聞こえる日本語に少しホッとしました。久しぶりに家族に会い、泣きそうになりました。空港からの帰り道でずっと食べたかったラーメンを食べると、帰ってきた事を実感しました。この研修を通し、私は新しい家族ができました。次会う時はもっと英語が話せるように勉強を頑張ります。

親善研修生　報告書Ⅱ

感想文

初めての経験ばかりの 10 日間

香川県立三木高等学校　１年
菅　紅羽

私は、この 10 日間のホームステイを通してたくさんの経験をしました。私は初めてのホームステイで、上手くコミュニケーションを取れるか不安でした。しかしホストファミリーはそんな私を色々な所に連れて行ってくれて、話の種をたくさん作ってくれました。経験したことのないアメリカのホームパーティーや野球観戦、サッカー観戦は全てとても有意義なものになりました。現地の人と話したり、食べたことのない食べ物を食べたり、私にとって初めての経験ばかりでした。

私の家では、ホストファミリーとしてたくさんの国から人を受け入れていました。ですが、今回初めて、ゲストとして、ホームステイをすることで、迎え入れてくれたアヴァの家族の愛をたくさん感じることができました。英語で伝えたいことを全て伝えることができなくても、私を第一に考えてくれるホストファミリーのおかげで、初めてのホームステイは、私の一生の思い出になりました。

この10日間で一番実感したことは、私の英語力の不足です。やってみたいことや、伝えたいことを、そして日々の感謝も頭では思っていても、言葉にすることができずたくさん悔しい思いをしました。もっと英語を話すことができたら、と何度も思いました。将来私はもう一度、アメリカのセント・ピーターズバーグにいるもう一つの家族に会いに行こうと思います。それまでに、私は日々努力し、英語を勉強しようと強く決意しました。次に家族に会うときは、自分の思いを伝えられるようになりたいです。また、研修のためにたくさん力を貸してくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、国際交流を続けていきたいと思っています。

親善研修生　報告書　Ⅲ

親善研修生　報告書Ⅲ

日誌・活動記録

香川県立高松西高等学校３年　原田　好美

７月 22 日（月）

４時に起きようと思っていたが、朝起きると時計は４時 48 分を指していた。準備は前日までに終えていたため、服を着替えて歯を磨き、髪をセットし、5時に家を出た。外はまだうす暗く、車もあまり走っていなかった。集合時間の５時 30 分より早く空港に到着し、ほかのメンバーを待った。空港が開き、チェックインカウンターへ行くと滞在先の住所が必要になるかもしれないと言われたため、ホストファミリーのマディソンに連絡をした。すると返信と一緒に夕食にピザを食べようと言ってくれた。もうアメリカに行くのだという実感が湧き、わくわくした。そして保安検査を通り、いよいよ飛行機へ。ガラスの向こうから見送りに来てくれた保護者達が手を振ってくれた。羽田までの約１時間はあっという間だった。同じ研修生の市橋君は飛行機に乗るとすぐにアイマスクを取り出し、就寝態勢へ。羽田空港に着くとターミナル間の移動があった。初めての国際線のターミナル。とても広くて日本人より外国の方が多く、少し緊張した。シカゴ行きの便までしばらく時間があったため、散策することに。私たちはしばらくお米を食べられないのでおにぎりを食べることにした。たくさん具材の種類があり、私は塩辛味を選んだ。食べ終わるといよいよ保安検査だ。液体は持ち込めないようで、鞄に入っていたお茶を飲み干した。保安検査では高松空港より大きな金属探知機に入り、両手を挙げて検査をした。出国審査はパスポートを読み込んで顔を認証するというものだった。何もかもが初めてですごく緊張した。手続きが終わると、免税店が広がっていた。グッチやシャネルなどハイブランドのお店がいっぱいで、セレブになったような気分だった。そして飛行機に乗ると先ほどの飛行機とは違い、個室のようになる席もあり、座席数もすごく多かった。個人用モニターもついており、映画やドラマを見られるようになっていた。機内食もチキンとポークを選ぶことができて副菜も美味しく、何よりデザートの JAL 限定ストロベリーパンナコッタフレーバーのハーゲンダッツがすごく美味しかった。ぜひ地上でも販売してほしい。その後の機内食も無印良品のバターチキンカレーでとっても美味しかった。シカゴに着くと、入国審査を受けるまでに気の遠くなるような長い列に並び、２時間も絵しりとりなどをしながら待った。審査官の人はびっくりするほど不愛想でちょっと悲しかった。全員が終わったころには次の便まで 30 分しかなかった。急いで荷物を預け直し、ターミナル移動をし、保安検査を受けなければならない。しかし、ここでたくさんトラブルが起こってしまった。市橋君は入国の際にもらった紙を紛失してしまい、もう一度発行しなくてはならなくなっ

アメリカへのフライトの始まり

ホストファミリー達との円陣

た。そのあと乗り継ぎアシスタントの方に案内してもらって、隣のターミナルに移動し、保安検査を受けた。そこで私の荷物が引っかかってしまった。先ほどの飛行機でもらった水と制汗剤が100mlを超えており、没収されてしまった。少しへこんでしまったが、職員の方が「Have a nice day」と言ってくれてちょっと嬉しかった。その後4人で飛行機を目指してダッシュして何とかタンパへ飛び立つことができた。飛行機の中ではみんな疲れて寝てしまった。タンパ空港に着いてからシャトルに乗って移動した先に、看板を持ったホストファミリーが待ってくれていた。やっと着いたと思うとほっとした。そのあとはホストファミリーであるシュミッツ家が先導してくれたのでその後についていった。車に乗るとホストシスターで、今年7月上旬にセント・ピーターズバーグ市から高松市に来ていた親善研修生のマディソンが「この車はとても新しいから少し操作に時間がかかるんだよ」と教えてくれた。そして出発し、窓から見えるアメリカの街を楽しんでいるとペリカンが見えた。マディソンのおばあちゃんが大のペリカン好きらしく、いろいろ説明してくれた。夕食はほかの研修生のファミリーと一緒にレストランで食べた。私たちは一番乗りだったため、メニューを見ながら待つことに。私は新車の匂いで少し乗り物酔いしてしまったことをマディソンに伝えると、お父さんのティムがレモネードを買ってくれた。さっぱりしてとても楽になった。他のファミリーが来て席に着くと、前菜を選ぶように言われた。カジュアルな店だったため、前菜を選ぶということに私は驚いた。前菜のケサディーヤという料理は絶品だった。美味しすぎてたくさん食べてしまい、メインの料理が食べられなかった。アメリカでは残した分を持って帰ることができるので、そうすることにした。家に帰り、シュミッツ家のルールなどを教えてもらい、シャワーを浴びて片付けもしないまま寝た。

最初のディナー

7月23日（火）

起きるともう9時だった。寝すぎたかなと思いつつ着替えてリビングへ行くと誰もいなかった。シュミッツ家では犬を二匹飼っており、大きい犬はコーブ、小さい犬はシッドという。二匹とも人懐っこい方ではなく、私はすごく吠えられた。もちろん2匹とも長年一緒に暮らしているシュミッツファミリーのことは大好きだ。私は彼らにとって突然現れた余所者のため、ファミリーを守ろうとしているようだ。しばらくするとマディソンがやってきて、スターバックスに行こうと誘ってくれた。私はアメリカ限定のスターバックスのドリンクを飲んでみたかったため、とても嬉しかった。スターバックスに着くと、お母さんのトリシャがタンブラーを買ってプレゼントしてくれた。「FLORIDA」と大きく書かれているご当地タンブラーだ。私はこれをみんなに自慢すると約束した。スターバックスではイチゴのレモネードとポテトを注文した。どちらも日本にはないメニューで初めての味だったが、びっくりするほど美味しかった。家に帰るとプレゼント交換をした。欲しいと思っていた「We are St. Pete」のTシャツや地元の野球チーム、タンパベイレイズのシャツをはじめ、フロリダのグッズやシールなどかわいいものがたくさんあった。私は浴衣を着る際に髪

愛犬コーブ

につける飾りをプレゼントし、トリシャはかわいいものが大好きなようですごく喜んでくれた。お昼にはチックフィレというチキンのお店に行った。私は小さなチキンナゲットとスープを注文した。トリシャはPolynesianというソースがお気に入りのようで私も食べてみることにした。とても美味しいと伝えると嬉しそうにしていた。そのあとはジェームズ美術館に行った。セント・ピーターズバーグ市親善研修生のリレンのお父さんのデリックさんはすごく物知りで､私たち3人にいろいろな絵を見ながら説明をしてくれた。マディソンたちは遠足で何度か来たことがあるようで、少しつまらなさそうだった。美術館見学が終わると、みんなでスターバックスに行くことになり、本日2度目だった。また違うメニューを注文してみたが、ドライフルーツが入っていて甘くておいしかった。そのあとはウェルカムディナーで浴衣を着ることになり、リレンの家に行って着替えることになった。私は日本から自分の分以外にもたくさん浴衣を持ってきていたので、マディソンやリレン、同じセント・ピーターズバーグ市親善研修生のアヴァにも着せてあげた。3人に着せるのは少し大変だったが、喜んでくれた笑顔を見るとやっぱり頑張ってよかったと思えた。ディナー会場に着くと、私たち6人はたくさんの人の注目を集めた。市長さんもディナーに参加していたため挨拶をした。ウェルチ市長は優しい人で、私がうまくしゃべれなかった時も「ゆっくりでいいよ」というように頷いてくれた。ディナーはバイキング形式だったため､スターバックスでお腹いっぱいだった私は量を調節しながら食べた。せっかく浴衣を着ていたので、みんなでいっぱい写真をとった。食事会が終わって帰るときには窓口でトリシャがカードで精算をしていた。きっと駐車料金だろう。しばらくすると係の人が車を運転してもってきてくれた。VIPのような対応だと思ったけれど、これが普通なのが驚きだった。帰り道にどの料理が一番美味しかったかについて話した。トリシャはチョコブラウニーが美味しかったけど、トッピングが残念だったと少し文句を言っていた。この日も家に着くとすぐ眠ってしまった。

浴衣でディナー

7月24日（水）

3時に目が覚めてしまった。これがいわゆる時差ボケというものなのだろうか。日本の友達に近況報告などをしながら出かける準備をした。今日は8時に出発するらしい。朝ごはんは出来立てのマフィンだった。食べ終わるとすぐに出発した。ドライブの音楽にMrs. Green Appleの曲をかけてもらった。今日はダンカン・マクレランギャラリーでガラス制作体験をする。まずはガラス作家のマクレランさんがいろいろな作品について紹介してくれたが、私はほとんど聞き取ることができなかった。だけど作品は全部きれいな色で、デザインも独特なものが多かったため退屈することはなかった。説明の後は2組に分かれてコップの制作にかかった。私たちのグループはまずクリアガラスに自分が好きなデザインのシールを貼り、その後サンドフラストで研磨し、シール以外の部分を擦りガラスにしたコップを作った。私とマディソンは主に海の生き物のシールを貼って水族館のようなデザインにした。リレンはハイビスカスの花を貼り、夏らしいデザインのコップを作ったようだ。次はいよいよ窯を使って吹きガラスを作る。汗をか

ガラスのコップ制作

くため、みんな工房オリジナルのシャツに着替えた。デザインや色を自分で選べたので、私は緑とピンクの桜餅カラーのグラスにすることにした。英語はあまり聞き取れなかったが窯の温度は 2000 度を超えるらしい。一緒に作ってくれたお兄さんは暑い中毎日暑い窯の近くでお仕事しているのだと思うと本当にすごい。私の作品は少し形が不格好なものだったが、かわいい出来だと思う。その後、マクレランさんが高松市長に贈り物を用意するらしく、そこに添えるメッセージを日本語で書いてほしいと頼まれた。市長に送るものなので緊張し、日本語訳も少し難しかった。後日贈り物の箱を見るととても大きく、私はささやかなプレゼントだと言われたのに全然ささやかでなかったので 3 人で少し笑った。

お昼ご飯は親善研修生事業をサポートしてくださっている SPIFFS(セント・ピーターズバーグ国際民族会)のジョーエレンさんが地元では有名なパブリックスという食料品店でサンドイッチを買ってきてくれた。全部入っているものが違うらしく、考えるのが面倒だったので目をつむって適当にとった。ローストビーフが入っていておいしかった。みんなが食べ終わってもまだまだ残っていたので工房の人たちにあげた。マディソンは体調が悪くなったようで、お母さんと一緒に先に家に帰ってしまった。私は同じ研修生の菅さんのホストファミリーのカルバリス家と一緒にショッピングに行くことになった。まずはトレーダージョーズというスーパーに行った。想像通りのアメリカのスーパーという感じだった。アバはお菓子を指しながら「これはすごく美味しいよ」とたくさん教えてくれた。インスタグラムでトレーダージョーズはかわいいエコバックが売ってあるという投稿をみて、バックを買おうと思っていたため気に入ったものを 2 つ購入した。その次は、ターゲットというとても大きいお店に行った。何でも売っていたがショッピングモールのようにたくさんお店が入っているのではなく、全部まとめて一つのお店になっていた。お店に入るとトリシャがいた。来週ディズニーに行くので T シャツを買おうと言ってくれた。私はミニーのシャツを買ってもらった。日本ではいつも M サイズを買う私だが、S サイズがちょうどよかったのでアメリカらしいなと思った。お菓子売り場でスナックを買ったり、お好み焼き用にキャベツを買ったりしてターゲットを後にした。

家に帰るとマディソンが部屋から出てきた。少し休んでよくなったみたいで安心した。17 時からお好み焼きを作るからまた呼びに来てくれるとマディソンが言ってくれたので、私はしばらくお昼寝することにした。しかし、起きるとなんと 22 時でマディソンが部屋に来てくれていた。何度もメッセージが来ていて、心配してくれていた。今日はもうこのまま休むと言い、トリシャにメッセージを返して寝ることにした。

7 月 25 日(木)

サンケンガーデンのフラミンゴ達

起きてまず昨日のことを謝ると「疲れているのだから休んでいいんだよ」と言ってくれた。本当に優しいファミリーだ。次に洗濯をした。家の洗濯機が壊れていたため、近くのおばあちゃんの家の洗濯機を使うことになった。挨拶のためトリシャと一緒に行った。おばあちゃんはイーヴィという犬を飼っていて彼女曰く、人間が嫌いらしい。今日はサンケンガーデンという植物園に行き、その後は市役所で高松市紹介のプレゼンテーションをする。普段スカートをはかないがプレゼンテーションをするということで、少しドレスアップのつもりで着てみた。サンケンガーデンではガイドの方が歴史や植物について説明してくれた。簡単な単語を選んでゆっくりと話してくれているため、私でもほとんど理解できた。サンケンガーデンのオウムは飼い主が育てられなくなったため、引き取られたらしい。

このような活動のおかげで助かっている動物がたくさんいることを改めて思った。他にも寒くなり植物が育たなくなってしまった時期にヒーターをたくさんおいて、寒さをしのごうとした話が面白かった。またアヴァのお母さんのサラはサンケンガーデンで働いていて、しかも責任者らしい。サラからサンケンガーデンのTシャツやタンブラーなどのお土産をもらった。とても素敵なもので嬉しかった。お土産ショップでたくさん買い物をした。

市役所でのプレゼンテーション

そしていよいよ市役所へ。市役所の入口では金属探知機を使った検査を受け、荷物も確認された。待合室で数分待った後、プレゼンテーションをする部屋へ入った。私の名前が一番初めにあったので最初に発表することになった。聴衆は思ったよりも多く、質問タイムにはもちろん台本にないことを話さなくてはいけないのですごく緊張した。私は盆栽の定義や鑑賞の仕方について発表した。途中には実際の盆栽の写真を見て、その木の樹齢を答えてもらうクイズをした。クイズのときにはアドリブでその時に応じて英語を話さなければならなかった。アメリカの人はクイズだというと盛り上げてくれ、積極的に答えを言ってくれたので本当に良かった。聴衆の皆さんの支えがあって何とか私の発表は終わり、他の2人を見守った。3人の発表が終わると、市議会と商工会議所の皆さんへのお土産を渡し、写真撮影をした。ホストファミリーは私たちをほめてくれた。「あなたを誇りに思うわ」と言ってくれて嬉しかった。緊張が解けると次は空腹が襲ってきた。隣の部屋へ行き、みんなでお昼ご飯だ。キューバ料理のようで名前はわからなかったが、揚げ餃子のようなものや小さなハンバーガーのようなものがあった。それをソースにつけると絶品だった。食べ終わると市役所の中を見学した。先日お会いしたウェルチ市長もいらっしゃったので彼のオフィスを見せてもらった。とてもかっこいいオフィスだった。その後もリレンのお父さんのデリックが市役所のなかなか入れないような部屋も見せてくれた。以前はその部屋でプレゼンをしていたようだ。夜ご飯はグランミーと叔父さんのPJと一緒に食べた。バイクのコレクションで埋め尽くされたお店だった。店にあるバイクや壁一面埋め尽くされたワッペンはすべてオーナーのコレクションらしい。私はパスタを注文したが、チーズのソースでこってりしていたので食べきれず、また持って帰ることにした。今日は早めに家に帰ったのでみんなでゲームをした。私が特に楽しかったのはYahtzeeという一人5つのサイコロを使って目の数をそろえるゲームだ。最初はなかなか上手くできなかったけれど、後半にうまくなり、追い上げて私が一位になった。他にもtroubleというゲームもしたがルールはあまりよくわからなかったが、ゲームなのにみんなが譲り合って結局私が勝ってしまった。でも楽しい時間を過ごせた。

市長のオフィスで記念撮影

7月26日(金)

今朝はペネラというお店で朝ごはん。少し遠出してドライブがてらの朝食にはアボカドトーストをチョイスした。大好きなアボカドをいっぱい食べられて幸せだ。その後は今日のパーティーのためにパブリックスでお買い物をした。ケーキやお菓子などがたくさん並べられてあり、先日食べたサンドイッチも売っていた。みんながお買い物をしている間、私は先日作り損ねたお好み焼きを今日のパー

ティーに作って持っていくことになったので、スライスの豚肉を探した。アメリカの肉はとても分厚かった。日本ではお肉はブロックかこま切れで売られていることが多いが、アメリカのお肉は一番薄いものでも一センチくらいの厚さがあったことに驚いた。家に帰るとすぐにダリ美術館に出かける準備をした。今日はお父さんのティムが連れて行ってくれるらしい。今までずっとお仕事だったため、今日美術館に行けることをティムは楽しみにしていた。美術館に着くともう他のみんなは到着しており、菅さんが私を呼んだ。どうやらダリと一緒に自撮りできるらしい。撮った画像はすぐに送られてきた。これがまた面白かった。ホストファミリーとも一緒に撮ったところでそろそろ美術館の中へ。アプリをダウンロードすると日本語で絵の解説をしてくれるらしく、英語力が乏しい私にはありがたかった。上手く言葉で表すのは難しいが、ダリの絵は実際にその絵を見ないと気付かないような目の錯覚を使った表現の仕方をしているのだ。また、ダリはとてもクレイジーな人間だったので、私のような普通の人には理解できないような考え方をしていた。だからこそ人々を圧倒させるような絵を描くことができたのだと思った。鑑賞後は美術館の中にあるカフェでハイビスカスティーを買ってもらい、みんなで談笑した。こんな時間がいつまでも続いたらいいのにと思った。今日は夜にアヴァの家でホームパーティーがあるので、それぞれ準備をしに一旦解散した。家に帰るとマディソンの姉のエイデンが来ていた。とっても明るいお姉ちゃんで私にも優しく話しかけてくれた。マディソンとエイデンは仲良しなようで、ずっと二人でお話ししていた。私はマディソンに浴衣の着方を教える約束をしていたので、エイデンと三人で練習することになった。やはり英語で説明するのは難しく、何とか身振り手振りで伝えようとしたが、日本人とアメリカ人では感覚が違うので伝わらなかった。だからまず自分がお手本でやって見せてそれを真似してもらった。その後まだ時間があったため、エイデンと二人でゲームをした。エイデンは大学生でゲームに関することを勉強しているそうで、教授が作ったゲームを一緒にしたり、任天堂スイッチで一緒に遊んだりした。あっという間に時間が過ぎ、いよいよお好み焼きを作る時間になった。私はキャベツの分量を間違えてたくさん入れすぎてしまったため、焼いたときに固まらずに崩れてしまった。お好み焼きの生地を増量し、もう一度チャレンジ。お父さんのティムが手伝ってくれたが、しばらくフライパンに触らせてくれなかった。試食してみるとみんな美味しいと言ってたくさんつまみ食いしていた。カルバリス家に行くと、菅さんが習字セットを持ってきたため、ペアの子の名前を漢字で書いてあげようということになった。このサプライズは大成功でみんなとても喜んでくれた。ピザパーティーではアヴァのお父さんのケニーの指導の下、自分で生地を伸ばしてトッピングをしてオリ

ダリ美術館で

ダリと自撮り

マディソンに漢字をプレゼント

ジナルピザを作った。また、オリンピックの開会式を見ながらホストファミリーたちに折り紙を教えたり、リレンとオリンピックに出場している国の話をしたりした。パーティーの帰りはティムと一緒に帰った。日本では夜に細い道で車がすれ違う時、道を譲るという意味で車のライトを小さくする習慣があるという話をした。ティムはこれが好きらしいが「アメリカでは譲らなければならないほどの狭い道はないね」と私が言うと、ティムは「その通り」と言って2人で笑った。家に帰るとお兄ちゃんのジョナがオーランドから来ていた。軽く挨拶をして私は部屋に戻って休んだ。

7月27日(土)

朝目覚めると足に激痛が走り、歩くことができなかった。何とか準備をしてリビングに行くと私の様子を見てみんなは大丈夫？と声をかけてくれた。大丈夫でなかったので水分を多めに取り、しばらく安静にすることになった。今日は朝に教会に行く予定だったが行けそうにない。マディソンと家でゲームすることになった。すべてがワイルドカードのUNOは面白かったが、マディソンが強すぎて一勝もできなかった。その後は出かけていた家族が帰ってきて、みんなで道を作るゲームをした。開始早々でお父さんのティムが蛇に噛まれて死んでしまった。するとマディソンが「シュミッツルールよ」と言って復活させていた。他にもアイテムをゲットしたりしてみんなで協力しながらクリアしていったのでジョナとも仲良くなれた。足を痛めて楽しみにしていた教会に行けなくなり、すごくつらかったが家族の時間が作れたので結果的に良かったと今では思う。土曜日にはサタデーモーニングマーケットが開かれる。このことは事前研修や高松市に派遣中にアヴァが行ったプレゼンテーションを通して知っていて、とても楽しみにしていた。ゲームが終わり、ティムが私にサタデーモーニングマーケットに行きたいか聞いてくれた。私が行きたいと言うとすぐに準備し、あと1時間で終わるマーケットをみんなで目指した。瓶詰されたジャムやバターやはちみつ、パン、アクセサリーなど様々なものが売られていて、私はあるお店のジャムを全部買った。あっという間に1時間は過ぎ、終わりの時間になった。トリシャは連れていきたいところがあると言ってどこかに向かって歩き出した。着いたところには高松市の研修生が残した壁画があった。そこで兄妹で写真を撮った。ここでお仕事があるため、ジョナとはお別れらしい。この後はリレンの家でパーティーだ。プールがあるのでみんなで入れるのだそう。ところが大雨が降り、すでに水着を着てスタンバイしていたリレンの妹のエティはがっかりしていた。だから先にゲームをすることに。これがまた面白かった。二つのサイコロを振り目が揃うと自分のターンが始まり、ラップのボールを一枚ずつ剝いでいくとお菓子やおもちゃなどの景品が出てくる。次の人が目を揃えるまで自分がラップを剥ぐことができる。アヴァがとても強く、一人だけ景品の量がとても多かったが、私たちに自分のお菓子を分けてくれた。すると雨が止み、いよいよプールへ。キルボン家のプールは奥に行くほど深くなっており、

私の兄妹

楽しいプール終わり

足がつかなかったので半分溺れながら端まで行った。片足が痛くて動かせないまま泳ぐと全然進まなかったが、いざとなったらきっと誰か助けてくれるだろうと思って楽しんだ。途中で SPIFFS のジョーエレンさんの作ったブラウニーを食べたのだがびっくりする美味しさで、ぜひ販売してほしいくらい絶品だった。その後はデリックさんがハンバーガーのパティをグリルで焼いてくれ、ボリューミーなハンバーガーを食べた。

夜はサッカー観戦に行った。スタジアムに入るときに金属探知機に入り、検査を受けた。正直とてもびっくりしたが、過激なファンがいるのかもしれないと思った。私はサッカーはあまり観ないのだが、それはマディソンも一緒だそうだ。開始早々で点を相手チームに入れられてしまい、会場で大きなブーイングが起こった。しかし中盤で巻き返しの 1 点を入れたときは大きな歓声や指笛の音がスタンド中に響いた。セント・ピーターズバーグ市の人々は地元愛が強いため、少々過激になってしまうのだそう。試合はローディーズの勝利で終わり、私たちは選手たちのサインをもらうことができた。これもいい経験になった。明日はいよいよ野球の試合を見に行くのでわくわくしながらベットに入った。

サインをもらう私

7 月 28 日（日）

今日は寝坊してしまった。いつもは時差ボケの影響で朝の 4 時頃に目が覚めてしまうのだが、今日は起きるともう 10 時だった。急いで準備して予定より遅めに出発した。球場の周りは車が大渋滞していて全然進めなかったため、歩いて入り口を目指した。ここでも金属探知機を使った検査を受けた。

DJ キティと撮影

ドームの中に入るとたくさんの食べ物が売ってあり、何か食べながら試合を見るのが主流だそう。席に着くまでかなり歩き、やっとたどり着くともうみんな来ていた。試合もすでに始まっていたが、まだどちらにも点は入っていなかった。私たちが応援するチームはタンパベイレイズで、球場はレイズの本拠地のトロピカーナフィールドだ。だからモニターにはレイズの応援を煽るような文字が映し出され、私たちも見様見真似で手をたたいたりしてみた。しばらくすると何か食べようということになり、私は近くの人が食べていたチップスを見てあれが食べてみたいとお願いした。ポテトチップスの上に牛肉とピーマンが乗っていてとても美味しかったが、いつものように量はとても多かった。するとある男性に話しかけられた。彼はザックと言い、数年前の研修生だそうだ。日本の学校での話などをしてしばらくすると試合が終わる前に帰ってしまった。このように自分が研修生となった後でもつながりを持って交流できるのは素晴らしいことだと思った。試合はレイズの勝利で終わった。

午後からは船に乗り、イルカを見に行った。イルカなんてそうそう見られないとはじめの方は思っていたが、すぐにイルカに会うことができた。「あっちを見て」と言われ見てみると、イルカの背びれが水面に出てきているのが分かった。それも一回や二回ではなく何度もだ。水族館で見るようなジャ

ンプは野生のイルカなので見ることはできなかったが、十分いいものがみられてよかった。また海岸沿いには富豪が住むような豪邸がたくさん建っており、見るだけでリッチな気分になった。船で港に戻ろうとしたときイルカの群れと遭遇し、なんとイルカが船と並走してくれた。それだけでもすごいことだがイルカたちがジャンプを見せてくれた。きっとこんなことはなかなかないことだろう。私たちを歓迎してくれているようで本当に嬉しかった。船を降り向かった先には折り紙のペリカンの像があった。折り紙は高松市、ペリカンはセント・ピーターズバーグ市を表している友好の象徴だ。セント・ピーターズバーグ市の街中にたくさん高松に関わるものがあり、とても嬉しく思った。今日の夜ご飯はファストフードだ。ハンバーガーを食べきれる自信がなかったので小さめのチキンにした。他にもみんなでシェアするようにポテトやチーズボール、オニオンリングなどをテイクアウトした。また、ソフトドリンクは自分でカップにそそぐことができ、おかわりもし放題なのだ。アメリカでは大体このような形態なのだそう。家に帰りトリシャにイルカと並走した話をすると「それはよかったね。私はそんなの見たことないよ」と言われた。私が撮った動画を送ったのだが、とても喜んでくれた。みんなで家でご飯を食べるときはお祈りをしてから食べる。私はしなくてもいいのだがお祈りを見守る。お祈りが終わればみんなでいただきますと一緒に言って食べるのが、私が来てからの食事前のルーティンだ。デザートにはカスタードというアイスクリームを食べた。普通のアイスよりクリーミーで、マディソンが生まれる前までシュミッツ家が住んでいたウィスコンシン州の食べ物なのだそう。甘くて美味しかったが少し重たく、たくさんは食べられなかった。明日はディズニーなのでみんな早めに部屋に行き、休むことになった。

タイタニックごっこ

折り紙のペリカンと研修生

7月29日(月)

今日は待ちに待ったディズニーデイ。髪をセットし､買ってもらったミニーのシャツを着て、エイデンが貸してくれたカチューシャを持って、準備万端だ。朝ご飯はWawaというお店で買った。コンビニとファストフード店が合わさったようなお店で新鮮だった。ディズニーまでは約二時間渋滞にも巻き込まれ、私はいつの間にか寝てしまっていた。目が覚めるとすぐに到着し、トリシャが「Welcome to Epcot」と言ってくれた。エプコットに入るとまずジェットコースターに行こうということになり、菅さんと市橋君とアヴァとアヴァのお母さんのサラとティムと私の6人で行くことになった。アバは全然怖くないし、フラットだよと言っていたが全然そんなこと

エプコット

モロッコエリアで

はなく、ぐるぐる回ったり、背中から落ちたりし、すごく怖かったがすごく楽しかった。菅さんと市橋君はあまり絶叫系は得意でないらしく、すごく怖かったと言っていた。その後は絶叫が苦手なメンバーとも一緒にいろんな乗り物に乗り、お昼ご飯を食べた。休憩スペースはクーラーがガンガンに効いておりとても寒かったので、市橋君は「エプコットはいろんな国のエリアがあるけど、ここはアラスカだ」と言っていた。お昼ご飯を食べ終わるとトリシャとマディソンは疲れてしまったらしく先に帰ってしまった。午後からは国のエリアを回った。カナダから始まりドイツやフランスなどヨーロッパの国々、モロッコ、日本、中国など実に 11 のエリアがあった。国のエリアには実際にその国から来たキャストさんが働いているのだそう。日本のエリアでは、きのこの山やたけのこの里をはじめとしたお菓子が売られていたり、アニメがモチーフの展示があった。大きなお城や五重塔といった建物があり、和太鼓の生演奏もされていた。自分の国のものが外国にあるのはとても嬉しかった。それぞれの国に独特の雰囲気があって、高めのブランドのアクセサリーなども売られていて見ているだけで楽しかった。全部回って思ったことは、西洋の建物はおしゃれなものが多く、日本や中国といったアジアの建物は独特のゴージャスさがあり、それぞれの国の文化の素晴らしさに気づいた。たくさんの外国人が日本に訪れたいと思っている気持ちがようやく分かった。日本に住んでいると気づかないが、アメリカに来てみて初めて気づいた。あっという間に時間が過ぎて私たちはそろそろ帰らなければならなくなった。最後にお土産ショップに寄ってもらったが気に入るものがあまりなく、いろいろな国のエリアで目についたものをすべて買うくらいにいろいろ買っておけばよかったと後悔した。そのことをエイデンに伝えると「また来ればいいんだよ」と言ってくれた。そうだ、後悔はまた来ようという原動力になる。私は将来絶対にセント・ピーターズバーグ市を訪れてホストファミリーに成長した自分を見せに行き、ディズニーにももう一度行くと心に誓った。帰りの車はすごく静かだった。きっと疲れている私を気遣ってくれたのだろう。帰りに Wawa に行き、お子様セットのケルサディアを買って帰った。夜ご飯を食べながら思ったのは、明日で最後なんだということだ。私は急に寂しくなった。

7 月 30 日（火）

ついに最終日が来てしまった。朝はおばあちゃんと一緒にクレープを食べに行くそう。私はカスタムでスモークサーモンとアボカドのクレープを注文した。おばあちゃんはエプコットの話を聞いてくれた。そして帰るのが楽しみかと私に尋ねた。私は Yes と答え、家族や友達にたくさんここでの経験を語ると伝えた。最後におばあちゃんは私にペリカンのぬいぐるみをくれて、これを見て私たちを思い出してねと言ってくれた。おばあちゃん曰くペリカンは幸運の鳥で、見ることができた日はラッキーデーなのだそう。私はそんなペリカンを手に入れたため、毎日がラッキー

おばあちゃんからペリカンの贈り物

授業気分

デーになった。本当にこのファミリーに出会えたことに感謝しかない。朝食を終えるとセント・ピーターズバーグカトリック高校へ向かった。この学校はアヴァが通っている学校なのだそう。スティーブンさんが教えてくれたのだが、公立の学校では宗教に関する教育をしてはいけないが、この学校は私立高校だから宗教的な教育をすることができるのだそう。この学校では宗教の授業の履修が必須らしい。学校に教会があるのは私には考えられず、新鮮だった。また、私たちが普段受けるような座学の授業だけでなく、映像の授業だったり音楽でもミュージカルをしたりと面白い教科があった。講堂に行った時にはリレンが「自分の学校の方がもっと大きいよ。ここは小さすぎる」と言っていた。私が何人くらい入ることができるのか尋ねると 1000 人くらいと言っていた。また学校が始まったら写真を送ってくれるそうなので楽しみだ。学校見学が終わるとプレゼントをもらった。学校のエンブレムやTシャツなどが入っていた。アメリカの人はTシャツをあげるのが好きなのかなと思うくらい、今回だけで私は8枚もTシャツをもらった。とても嬉しい。最後にカフェテリアでチョコ牛乳をもらった。他にもお菓子など売っていたのでうらやましかった。

最高の姉妹

家に帰り、エイデンがターゲットに連れて行ってくれた。チョコレートやスナックなどお菓子をお土産用にたくさん買った。大きなカートがお菓子でいっぱいになった。私はこの時、持って帰れる量かどうかを全然気にしていなかったが、後で後悔することになった。買い物が終わると最後のディナーを食べにみんなで出発した。今日の夕食では SPIFFS が色紙を用意してくれたので、それにみんなで寄せ書きをした。私の色紙にも研修生のみんなやホストファミリーがメッセージを書いてくれた。食事はいくつかあるメニューから自分の好きなものを選べたので、私はシュリンプのフライのようなものを食べた。セント・ピーターズバーグでは大好きなエビをたくさん食べることができてとても幸せだった。最後の食事が終わり、車に乗るとトリシャが Polynesian のソースをプレゼントしてくれた。これでいつでもアメリカの味を思い出すことができるのでとても嬉しかった。帰った後はサタデーモーニングマーケットで買ったジャムやコップを家族総出で梱包してくれた。明日の朝は 3 時 45 分に出発する。荷造りもまだまだ終わっていなかったので、夜に必死にお土産をキャリーケースに詰めた。多すぎて全部は入りきらなかったので、大きなカバンに入れて機内持ち込みにすることにした。

7 月 31 日（水）

朝 3 時に起きられず、ぎりぎりの時間にノックの音で起きた。荷物はまとまっていたため閉じるのを手伝ってもらい、すぐに家を出発した。空港に着いて手続きを終えると一安心で、最後の時間をホストファミリーと過ごした。この時間はすごく短かったような気がする。列車の乗り口の前でみんなとハグをして、最後のお別れをした。トリシャはゲートに入ってからもずっと手を振り続けてくれた。

アヴァのお母さんのサラは奥の方で泣いていた。私はもらい泣きしやすいので、思わず我慢していた涙がこぼれてしまった。保安検査を終えてからスマホを見るとみんなからメッセージがきていた。私は感謝とたくさん迷惑をかけてしまったことの謝罪を伝えた。マディソンもトリシャも私の足が早く良くなるようにと何度も言ってくれた。シカゴに着くとホストファミリーに連絡し、待ち時間の約3時間にマクドナルドに行ったり、少し空港を探検したりした。マクドナルドは日本よりメニューが多く、値段はとても高かった。チップもないので対応も少し冷たかった。日本のスマイル0円は本当にすごいんだなと感じた。シカゴから羽田まではカナダの方を通った。窓から見えたカナダは雪が積もっており、白銀の世界が広がっていた。行きとは違う機内食も堪能し、ドラマもたくさん見た。

さよならアメリカの町

8月1日（木）

羽田に着くと周りに日本人ばかりになり、安心した。久しぶりに自動販売機でジュースを買って飲んだ。アメリカではずっとレモネードばかり飲んでいたので、すごく懐かしかった。高松行きの飛行機までしばらく時間があった。もう全員疲れていたので早く帰りたいという思いで、広い羽田空港を必死に歩いた。搭乗口に着くと高松第一高校の生徒がいた。マディソンたちは高松を訪れた際に一高に体験入学しているため、一高の生徒は彼女たちのことを知っていた。菅さんのお友達もいたようで、マディソンたちの話を少しした。そして飛行機に乗り高松へ。シカゴから羽田まで12時間のフライトの後だったため、1時間はあっという間だった。気が付くと高松空港に着陸していた。荷物を受け取り外へ出るとみんなの家族や高松市国際協会の常務がお迎えに来てくれていた。とても長かった一日が終わった。

親善研修生　報告書Ⅲ

感想文

家族

香川県立高松西高等学校　3年
原田　好美

私は今回の派遣プログラムで新しい家族をつくることができた。私は家庭の事情でマディソンが高松に滞在した間、ホストファミリーになることができなかった。それにも関わらずシュミッツ家の皆さんは、赤の他人だった私を温かく受け入れ、家族の一員にしてくれた。ホストマザーのトリシャは、私がセント・ピーターズバーグ市を訪れるずっと前からインスタグラムで「あなたに会えるのを楽しみにしているよ」「行きたいとこがあれば教えてね」などメッセージを送ってくれた。シカゴに着いた時にはすぐに連絡をくれ、ステイ中も常に私が無理をしないように気を使ってくれた。ホストファザーのティムは、私の片言で発音の悪い英語を一生懸命聞き取ってくれ、なるべく私が理解できるようによりシンプルな英文で話してくれた。私が足を痛めたときも、目が合うたびに「足は大丈夫なの？」と聞いてくれた。マディソンのお姉ちゃんのエイデンは､初めて会った時からずっと前から知っている友達のような感覚で私に接してくれた。また物知りで、少し早口だがたくさんの私が知らないようなことを教えてくれたお兄ちゃんのジョナは、本当に短い時間だけしか一緒に過ごすことができなかったが、十分家族に愛され、家族を愛しているいいお兄ちゃんだということが分かった。少し緊張してしまいおどおどしていた私にも声をかけてくれ、ゲームでは一緒に盛り上がることができてすごく楽しかった。最後にマディソンは、いろいろな場所に訪問した際に説明の英語が早すぎて私が全然わかっていなかったのに気づいて、なるべく簡単で分かりやすく教えてくれる本当に頼もしいパートナーだ。だからこそマディソンは体調を崩しがちのため、すべてを一緒に体験できなかったことはとても残念に思う。またお世話になったホストファミリーに何のお礼もできないままお別れとなってしまった。だからエイデンの言うように、後悔があるならもう一度行けばいいのだ。私の成長した姿を見せてファミリーに「この子を受け入れてよかった」と誇りに思ってもらえるように、これから努力したい。そしていつかもう一度セント・ピーターズバーグ市を訪れ、シュミッツ家のファミリーと再会したいと思う。